

ミカエリス夫人の出席した最後の公會はブラッドフォードに開かれたフレイベル會の協議會であつて夫人はこの席上五才以下の兒童の育兒學校に就て語つた。

フレイベル學院の校長としてはエツサー、ロー

レンス嬢がミカエリス夫人の後を繼承した。ローレンス嬢はフレイベル學院の幹部にならなかつた前にはベッドフォード、パークにある共學學校附屬の幼稚園の長をしてゐた。(續)

保育入門 (八)

倉橋惣三

八、幼稚園教育の方法

第二、其の材料——遊具

一
遊戯を誘導するに二つの手段がある。一つは遊戯法を教へるのである。一つは遊具を供給するのである。前の手段は『人』により、後の手段は『物』による。『人』による誘導は教育者の思ふ様になり従つて、所謂教育的形式を完ふことが出来る

しかし、それだけに誘導の作用が直接過ぎて、幼兒の自發が犯され易い。即ち自發的遊戯の最重要なる二つの特質が失はれ易い。茲に幼兒教育上の大いなる危険があるのである。然るに、『物』による誘導は、誘導の作用として甚だ間接的である。間接的であるだけに幼兒の自發を害する懼れがな

い。自發を害せずして幼兒の遊戯を誘導し得るもの——すなはち遊具は、幼稚園教育上主要なる位置を占むべき問題である。

幼稚園に於て用ゐらるべき遊具は種々の方面よりして種々に類別せられる。先づ第一に系統的遊具及び非系統的遊具の別がある。

(一)、系統的遊具は、遊戯による諸精神活動の誘導を系統的組織のもとに行はんとして、案出せられたものである。即ち其の各遊具は、明瞭なる目的と、豫定せられたる順序とを以て、全體として一つの統一を有する處のものである。一例としてフレーベルの『恩物』、モンテッソーリの『練習用具』等が其れであつて、之等のものが普通の玩具類と區別せられて、特別なるもの、如く見做されるのは、即ち其の系統的なる點によるのである。處が、系統的遊具には系統的なるが故に基く長所と短所とがある。先づ其の長所としては

(イ)、教育者の希望する部分的活動の發達に向つ

て、はつきりした誘導が出来る。例へば各感覺の練習、或は特に工夫力の練習、といふ風に、其の目的を定めて、比較的目に見えた結果を得られる。

(ロ)、其の系統組織が充分正しい場合には、幼兒の發達の程度に適應した與へ方が出来る、かくて順々に系統の立つた誘導が出来る。殊に簡單から複雑にといふ論理的な進み方が出来る。

(ハ)、一系統に屬する一組の内容が規定せられるから、其取扱ひにも整理にも、最も便利都合である。殊に、それさへ遊具として與へて置けば、他に格別な工夫も撰擇も要せぬといふ處に、手數の上の經濟がある。

次に短所としては

(イ)、系統といふこと夫れ自身が既に論理上の満足を主とするものであつて、之れが爲に自然抽象的になり易い。例へば視覺の練習、觸覺の練習といふ如き、精神生活全體の具體的活動の中から、其の部分々々を分解的に誘導するといふことは、

最も抽象的なり易い危険の伴ふものである。

(ロ)、殊に簡單より複雑に、所謂易より難にといふことが、成人の思考から割り出さるゝ時に、論理的弊害の危険は一層多い。蓋し幼児にとりては必ずしも成人と同様な論理主義を以て、經驗上の先後が定まるものでないからである。

(ハ)、之れが爲には自ら幼児の自發的興味に訴ふることが少くなる。謂はゞ理屈が勝ち過ぎて實際には幼児の生活にびつたりと合はないといふ風のことゝが起り易い。

勿論事實上、系統的遊具と雖も、それ程系統的に行はるゝものではない。大に廣い範圍に裕通せられるものである。是に於て、實際上は、系統的遊具と非系統的遊具とが嚴密に區別せられるのは考案者の考へだけであつて、幼児自身は別に之れに對して特別な使用を區別するものではない。若し區別したならば、自發遊戯の範圍は直ぐに超えられて仕舞ふ。それを超えてまで、換言すれば、

自發遊戯たることを失はしめてまで、其の系統的使用を強むんとするならば、もう既に遊具ではなくなるのである。其の誤れるは言を俟たない。

(二)、非系統的遊具は、普通の言葉に於ける玩具が即ちそれである。而して其の系統的遊具に對する關係は、教科書に對する普通の讀み本の關係であるかに考へられて居る。非系統的といふ點に於ては正に左様である。しかし、教育上の價值よりして此の譬は必ずしも當らない。小學校教育に於ては教科書が最も教育的のもので、普通の讀み本は面白いだけで、其の價值はずつと低いものと見られて居る。しかも、幼稚園に於ては、非系統的遊具の價值は、教科書たる系統的遊具に比して、必ずしも下位に位するものではないのである。『思物』といへば教育的に意味深いものとなり、『玩具』といへば教育的意味の淺いものである如く考へられたならば、それは何等理由のないことである。自發遊戯の誘導法として、同様に意味の深い

ものである。殊に

(イ)、非系統的遊具が幼兒生活に對して、具體的なることは、その第一の長所である。前に述べた如く、系統的遊具と雖も、幼兒は之れに自己の全生活を活動せしめるが普通ではあるけれども、非系統的遊具に於ては、一層具體的に生活せられる假令ば人形の如き、電車玩具の如き、いづれも幼兒の生活を或る種の感覺とか、心作用とかに限り活動せしむるものではない。従つて、其れによつて生ずる發達の成績を、はつきりと測定計算し得るものではないが、全體として統一した發達が期せられる。而して之れは何より貴重なることである。

(ロ)、是に於て、非系統的遊具は、其れが誘導する精神活動の、なるべく多面的なるをよしとするのである。勿論、玩具を其の主として活動させらるゝ、精神活動により分類することは、研究上便利なることではある。しかし、之れと玩具の實際

の作用とを混同してはならない。若し、玩具にして、たゞ一方面的の精神活動にのみ關係する如きものあらば、それは系統的遊具の一種に數へらるべきもので、非系統的遊具としては、其の價値の甚だ偏せるものである。偏せるだけに價値の少ないものと言はなければならぬ。

(ハ)、系統的遊具は、系統的遊具に比して、論理的に甚だ亂雜無秩序である。難易簡複の順序も明かには立て難く、嚴密なる意味に於て發達段階の順序を定めることも出来ない。之れが爲に何となく教育的でないかの様に考へられ易い。しかもその無順序に見えるのは成人の考へからである。幼兒は其の發達相應に之れを使用して誤らないのである。而して、元來が非系統的であるから、幼兒の自在なる使用活用に任せて、何の不都合もなく不道理もない、かくて、非系統的遊具は其の關與する精神活動の多方面なる處に眞價の存すると共に、又その各種の發達段階に順應する處に其の

眞價が存するのである。而して、之れは、多くの幼児に一種の遊具が適用せられ得るといふ便宜の上からではなく、以て、存分に自發的ならしめ得るからである。

かくて、非系統的遊具は、系統的遊具と、少くも同等位を以て幼稚園教育に重要なものとなる。然るに、幼稚園の教育は主として系統的遊具により、非系統的遊具は、家庭用に限らるゝか、さなくも幼稚園教育に於て副の位置に置かるゝといふことは謂れなきことである。殊に、具體的なれといふ原則に基いては、非系統的遊具に最も望ましか条件が具有せられて居る譯である。

二

非系統的遊具は、之れを大きく三種に分類することが出来る、(一)實體遊具、(二)使用遊具、(三)材料遊具、之れである。先づ、實體遊具に就て考へよう。

(一)、實體遊具、實體遊具は、それ自らに一つの

完全體として取扱はるゝもので、通常謂ふ處の玩具の多數は之れに屬する。其の最も簡單なるものにあつては、必ずしも形態を主とせず、其の色、其の音、其の觸覺等が主になつて居るものもあるが、少くも幼稚園期以上の幼児に用ゐらるゝものにあつては、大抵何物か實物の形態を摸したものである。或は必ずしも模造品のみならず、實物がそのまゝに遊具として用ゐらるゝこともあるが、その場合に於ても勿論一つの遊具として使用せらるゝのである。

實體遊具の種類は非常に廣汎である。謂はゞ自然界及人事界の萬象一切に涉るので、それに相應する一切の生活が遊戯せらるゝのである。即ち、實體遊具は、それ／＼の生活を誘導するものである。假令ば、小鳥を摸したものは、實物の小鳥に對する愛翫、飼育等の生活を遊戯として誘導するのである。飲食の器物を摸したものは、所謂まゝ、ごととして、實際の對客響應の生活を誘導するの

である。電車、船、自動車、皆それ／＼の交通器
關に對する生活を誘導するのである。而して、
幼兒は成人の實生活を傍觀して、活潑なる好奇心
を心の中に促されて居る。それが、之等の遊具に
よつて、實現せらるゝ處に満足と興味とが起るの
である。是に於て、幼兒の好奇心をなるべく完全
に實現し得るといふことが、實體玩具の重要條件
になる。そこで第一

(イ)、實物に近いものでなければならぬ。實物
通りといふことは望み難いこと、又必ずしも夫れ
程必要のないことであるが、實物との違ひが餘り
遠い時には、それに對する生活の實現は困難であ
る。但し、實物に近いといふには、二つの主なる
點がある。其の一つは形とか色とか、即ち目に見
た處が實物に近いといふことであつて、もう一つ
は、その取扱はれ方が實物の場合と同様といふこ
とである。而して、前の條件も勿論重要であるが
幼兒の好奇心の實現のためには、後の條件が最も

大切である。若し形態色彩等の點巧妙を極めて、
實物の點に迫るものあるとも、之れを其の物らし
く取扱ふことが出来ないものならば、幼兒の興味
は決して満足せられない。成人の翫賞用としては
兎も角く、幼兒用遊具としては不適當なるもので
ある。

(ロ)、但し、實物らしく取扱へるといふも程度は
いろ／＼である。のみならず、幼兒の要求の程度
それ自身がいろ／＼である。假令ば自動車にして
も、大體類似の形を有して、而して動かし得れば
よいといふ程度もある。巨細の裝置微に入り精を
盡し、且つ自動的に走るのでなければいけないと
いふ程度もある。又此兩極端の間に幾十段階の差
等がある。其の中で成るべく眞に近い程製作品と
して立派なものに違ひない。しかも實體遊具とし
ての價值如何といふことになれば、必ずしも此の
標準と一致しない。要するに幼兒の要求の程度に
應ずればよいのであるから、それ以上は餘計のこ

とになる。或は過ぎたるは尙及ばざると同様なる短所となることもある。

但し、幼兒の要求の程度は次第々々に高くなる時には極めて急速な進み方をする。此の場合、昨の適應は今日の不満足となる。不満足となつたらば遊具の方も亦一段進歩しなければならぬ。しかし、初めより其の用心をして、中々不満足に達しない程度のもを、所謂先を超して與へて置くといふことは教育的でない。教育的には、その不満足を味はせるといふことに價值があるのである。いづれにしても、今の程度に適應するものでなければならぬ。

(ハ)、堅牢といふことは、實體遊具の貴重な條件である。取扱ふて直に破損するようでは、結局、使用上の好奇心を實現せしめ得難いからである。

此の點は實物と遊具と甚しく異つて居る點である。實物なれば、其のものによつて、必ずしも絶対に堅牢のもの許りとは限らない。硝子瓶、瀬戸物の

皿は破損し易い。しかも、その遊具は容易に破損しないものでなければならぬ。

但し、兒童の發達の進むに徒つて、此の點に於ても、實物らしい性質の別を具へしめて、そこに一種の教育を與へる必要も起らないではない。しかし、幼稚園時期に於ては、堅牢にしてよく用いたえるといふことが、幼兒をして思ひ存分の實現をなさしめる上から必要のことである。

(ニ)、使用遊具。實體遊具はそれ自身に於ては主として實物の模寫である。それ自身特に工夫せられて居るものではない。しかも、使用遊具は遊び方を考案して、それに使用せらるゝ様に作られたものである。従つて、其の使用法が定まつて居てその通りに使用する時、始めて、其の遊具の有する價值も興味も出るのである。其の點に於て、系統的遊具と大に類似して居る。たゞ、そこ迄組織的でなく、多くは斷片的考案であること、興味の方が比較的主になつて居るだけの違ひである。例

令ば、獨樂、お手玉、智惠の輪等の如き、之れを用ゐて遊ぶことによつて、斯くの如き價值あり、斯くの如き興味ありとは考へられて居ても、別段秩序立つた系統が作られて居るのではない。

實體遊具の純誘導的なるに對して、使用遊具は多く練習的である。一言にいへば、上手になるといふことが多くの場合含まれて居る。こゝに此の遊具の意義の中心があると言つてもよい。即ち、

系統的遊具の長所が、此の遊具の長所として具有せられて居る譯なのである。

(三) 材料遊具、に就ては後章手技の問題と併せ考へることにする。

○フレーベル會總會

昨年規則改正によつて本會總會を秋季に開くことになりました其の第一回が此の十月下旬を以て催さるゝ筈であります。期日其他の詳細は來月發行の本誌上に掲載致しますが、當日は大家の講演其他會員相互の懇談等によつて、愉快な且利益多き會合たらしめたいと計畫して居ります。殊に東京帝國大學教授松本文學博士も有益なる講演をなさつて下さる様に御内諾を得てあります。多數の方の御來會を今より希望して置きます。

○幼兒教育暑期講習會

本會主催幼兒教育暑期講習會は豫定の通り八日一日より十日間東京女子高等師範學校講堂に於て開催せられました。百名に近き聽講諸君が、遠きは滿州、朝鮮、其他内地各地方より來會せられた例年になき酷暑の中を、始めより終りまで熱心に講習せられたことは、本會開催の趣旨を完ふし得たものと言ふべきであります。菅原講師は多數の圖表繪畫を供覽して、美的陶冶の基礎問題につき講義せられ、藤講師は、懇切なる熟練なる指導法を以て、簡單玩具製作の實習を與へられ、倉橋講師は幼兒教育に於ける訓育につき暗示を與へられ、斯くて全十日間の講習は直接間接幼兒教育上補益する處少くなかつたと信するのであります。殊に六日午後、菅原講師の講義に關聯して、琴曲の名手鈴木鼓村氏の我國音樂の變遷に關する講演及び氏の作曲にかゝる童曲の演奏あり、又八日午後二葉幼稚園の參觀、九日午後は會員全部の懇談會等特別なる催しの他、其の他の午後も熱心なる諸君の多數が殆んど夕刻に近くまで玩具實習をつゞけらるゝ等。會期中の時間は實に一